川崎ジュニア文化大賞

ぼくらのデジタル川崎市

下沼部小学校　6年生　中谷　悠人

「そうだ！マインクラフト上に未来の川崎を作ろう！それも、ぼくたちが大人になった20年後の世界を作ろう」

マインクラフト上のメタバース空間で、ぼくは大好きな工場夜景を案内しています。放課後は、タケコプターで生田緑地に向かい、友達と昆虫採集をします。多摩川でロボットが管理する養殖施設を作るのも楽しいかもしれません。そう、ここは学校でも家でもない第三の場所。ぼくたちの秘密基地。この思いつきにワクワクして仕方がありませんでした。

ぼくがなぜマインクラフトで未来の川崎を作りたいと思ったかというと、始まりは3年前の3年生の3月にさかのぼります。生まれ育った川崎市が大好きだったぼくは、川崎市のことを知って役に立ちたいと考えて、「ようこそ！かわさき検定」を受験して最年少で合格しました。合格者を対象にした川崎市産業観光協会のガイド講座を楽しみにしていましたが、コロナで中止になってしまいました。

それでも、何か地域の役に立てることはないかと探したところ、ぼくが住んでいる中原区でSDC（ソーシャルデザインセンター）の参加者を募集していたので、思い切って応募しました。SDCとは川崎市7区に設けられた「市民創発型で課題解決を目指す新しいコミュニティ」です。最初は、課題解決なんて、小学生が参加して大丈夫なのかなと不安でしたが、区役所のみなさんも、快く迎えてくれました。1年半にわたる検討会では、大人と同じように対等な意見が求められて、最初はうまく話せませんでしたが、時に厳しく時に優しく指導してもらったおかげで、自信を持って自分の意見を伝えられるようになりました。

昨年10月に準備期間を経て中原区SDCがスタートし、中原区の「大好きな場所」「素敵なひと」「楽しいこと」を発見していく、「なかはら宝探し隊」で活動することになりました。等々力緑地で開催された「ゆめ区民祭」では、参加した人が思う地域の宝の場所にシールを貼った「宝の地図」が、今年の1月に開催されたSDC交流会では、ぼくたち小学生が見つけた「小学生の地図」が作成されました。宝の地図を作ることで、「ぼく達が住んでいる地域はこんなに素敵なんだ」と幸せな気持ちでいっぱいになりました。

また、コロナが落ちつき、観光協会の皆さんのおかげで2日間の座学と実地研修を無事に終えて、ガイド研修も修了し、川崎がもっともっと好きになりました。さらに、未成年は安全上の理由で正式なガイドになれないため、「川崎市の産業観光を支援する会」のみなさんの支援を受けて「お花見ツアー」のガイドをすることができました。

これらの経験を通じて、ぼくは川崎市や中原区の魅力を市民や区民はもちろんで

すが、富山にいて普段会えない祖父母や従兄弟、海外の人にも伝えたいと思うようにもなりました。さらに、その思いを分かりやすく伝えるため、学校にはない発表の場も経験し、相手にどう話せば伝わるかについても学びました。

もし、毎日学校と家を往復していたら、こんな出会いはなかったのかなと思います。ぼくは、両親でも学校の先生でもない地域でイキイキと活躍する大人を見て、尊敬や憧れの気持ちが芽生えて、ぼくにもできることがあると自信を持てるようになりました。そして、ぼくだけでなく、子どもたちみんながもっと気軽に地域の大人とつながる基盤（プラットフォーム）を作りたいとずっと考えてきました。

そんな時、ゲームやロボット作りなどを楽しむ「CoderDojo 武蔵小杉」で 3D で建築を作る「マインクラフト」を知りました。インストールして、最初はブロックを積むだけでしたが、段々上手になり、街も作れるようになりました。そして、「そうだ！ここに未来の川崎市をみんなで作ろう。そして、そこは、ぼくたち小学生だけでなく地域の大人たちが自由に交流できる場所にしたらどうだろう」と思い付きました。そして、中原区役所を作りはじめました。そんなぼくの思い付きを「面白いね！やってみようか」と言ってくれる企業の方があらわれて、たくさんの仲間を連れてきてくれました。

ぼくたちの挑戦は始まったばっかりです。でも、きっと 2 年後の川崎市市制百周年を迎える頃には、ぼくたちが大人になった時の素敵な街ができていると思います。生田緑地での昆虫採集以外にも、たくさんの遊び場を増やすことで大人も子供も楽しめる空間を増やし、川崎の人も川崎以外の人もリアルの世界では体験できない川崎の魅力も楽しむことができる。そんな場所を作るために、ぼくは一生懸命頑張りたいと思っています。